

令和 3 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0390500304		
法人名	社会福祉法人 宇津野会		
事業所名	グループホーム金矢 南町ユニット		
所在地	〒025-0304 岩手県花巻市湯本第19地割380番地1		
自己評価作成日	令和3年8月21日	評価結果市町村受理日	令和3年11月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>入居者様に寄り添い過ごしやすい環境作りをしております。理念・目標を職員全員で唱和し共有化に努めております。面会制限が、長期になっているためご家族様との繋がりを大切にオンライン面会を行っております。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>職員の提案によって、本年度から、朝夕の食事作りは新たに採用した3名のパート調理員が担当しているほか、清掃業務も週2回清掃業者に委託している。これにより、以前よりも介護職員が利用者に向き合うことのできる時間が増え、利用者に一層寄り添った支援が可能となっている。2ユニットの職員全員で2ユニットの全利用者の支援に当たる運営を行っており、利用者もユニットの壁がなく自由に交流できている。二つのユニットの中間にある小上がりの和室から利用者の様子を見守れるので、和室で毎月開催する職員会議やモニタリング会議には全職員が参加することができ、職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。新型コロナウイルスの感染防止のために、家族等との面会は長期間制限しているが、昨年11月からはZoomを活用したオンラインでの面会を実施しており、特に、関東地方など県外に居住している家族が利用している。</p>
--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年9月15日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、目標を毎日職員全員で唱和し確認している。	3年前に職員が職員会議で意見を出し合って策定した新しい理念(「ともに歩み、ともに支え、ともに暮らす」と目標(「笑顔、気づき、報連相」)を、毎日、出勤した職員が唱和し、理念の確認と共有に努めながら、「利用者に合わせた支援」を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、お買い物や地域との交流は行っていない。	例年であれば地域の金矢神社の神楽を見に出かけたり、近隣の障害福祉サービス事業所「わたぼうし」と交流したり、行政区長の協力の下で地域のごみ拾いを行うなど、地域との交流が図られていたが、現在はコロナ禍のため地域交流や買い物に出かけることを控えている。町内会には隣接のケアハウスとともに加入している。冬季は、地域協力員に事業所敷地の除雪作業を行っていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様などには、認知症の理解や支援相談を随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度開催している。参加者の意見交換をすることでサービス向上に繋げている。	運営推進会議を2か月に1回開催している。新型コロナウイルス対策で昨年度は書面開催を2回行ったが、今年度はすべて参集開催をしている。委員は、地域協力員、知見者、地域包括支援センター職員、利用者、利用者の家族、利用者居室担当職員などで構成されているが、市役所職員、町内会役員、民生委員は含まれていない。利用者の家族委員からは、新型コロナ禍ではあるが面会制限を緩和してほしいとの要望が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問い合わせがあった時に、随時対応している。	介護保険上の疑義が生じたときは、市の介護保険担当課を訪問したり、電話で問い合わせることにより、助言や指導を受けている。介護保険担当課の職員が介護認定の調査のために来訪することがある。また、事業所のケアマネージャーが生活保護用務で、毎月、市の福祉事務所を訪問しているほか、福祉事務所のケースワーカーが半年に1回事業所を訪問している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で研修を行い身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束廃止に関する指針を法人として作成し、毎月、職員会議終了後に身体拘束適正化検討委員会を開催している。身体拘束防止に関する研修会を年2回開催し、講師を職員が持ち回りで担当し、スピーチロックなども取り上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠しないで、ドアが開くとセンサーが感知してメロディが流れ、外に出ていく利用者には職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で研修を行ったり、資料を回覧したり理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強を行ったり資料を回覧したりして理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、来所して頂き十分説明をしたうえでやっている。確認等は、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当を中心に利用者様、ご家族様の意見、要望を職員間で情報共有している。	コロナ禍のため家族との面会を制限しているが、利用者の受診時の付き添いに際し家族が事業所を訪問したときなどに、居室担当職員が利用者の近況を伝えるとともに、家族の要望を伺うようにしている。また、広報紙「グループホーム金矢便り」を2か月に1回発行しているほか、本年度からは利用者一人一人のスナップ写真や生活の様子を掲載したお便りを各家族に送付して、利用者の近況を伝えている。利用者の家族から、面会制限の緩和について要望されているが、感染防止のためのやむを得ない対応であることを説明している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行っている。職員から意見や要望等話しやすい環境作りをしている。	2ユニットの職員全員が参加する職員会議を毎月1回開催し、管理者は全職員に発言を促し、意見や提案を聞くようにしている。会議の書記を全職員が持ち回りで行うとともに、職員が二人一組で研修講師を担当し認知症について話し合っている。職員からの要望を受けて、本年度からは事業所内の清掃業務を週2回清掃業者に委託し、朝夕の調理業務についても専属のパート職員を雇用することにより、介護に当たる職員がこれまで以上に利用者に寄り添った支援ができる職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人と面談を行っている。問題点の把握と対策を随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得しやすい環境を整え資料などを回覧し情報提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の隣接施設の他事業所と交流する機会を設けている。今年度は、交流は行っていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、訪問調査、面談を行っている。居室担当が中心となり情報をもとに信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に、話しを聞き訪問、面談を行い関係づくりに努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時に、本人と家族が必要な支援等を確認しサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係の構築に努め、利用者の出来ることを維持できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を行っているため、お便りやオンライン面会などで様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会を活用し、関係が途切れないように支援に努めている。	新型コロナウイルス対策により、近隣の住民やボランティアなど馴染みの人との面会や交流を控えていることもあり、理髪のために定期に来訪する理容師との交流は貴重なものになっている。また、家族との面会もやむなく制限しているが、昨年11月から希望者にはZoomによるオンライン面会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやイスの配置等を工夫し良い関係を保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、問い合わせがあった時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に生活歴を聞き取り居室担当を中心に行い職員間で共有している。	多くの利用者は言葉で意思疎通ができるので、職員は日常の生活場面でのさりげない会話を通じ、利用者の思いや意向を聴きとるように努めている。また、意思疎通の困難な利用者については、入居前に聞き取った利用者の生活歴を職員間で共有し、利用者の何気ないしぐさなどから推測して対応している。利用者の日々の生活の様子や特記事項を記したケース記録は、毎日、全職員に回覧し、利用者の思いや意向の共有に努めている。	利用者の思いや意向を把握するツールとして、認知症介護研究・研修センターが作成したシート集(センター方式)などの活用を検討することを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、生活歴を調査した内容を職員間で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に本人やご家族様から話を聞き居室担当と計画作成担当者が中心となり行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で話し合い意見交換し取り入れられるよう心掛けている。	入居に当たり利用者と家族から聴取した利用者情報を、回覧により事前に全職員が把握している。その後、利用者の居室担当職員を決定し、ケアマネが担当職員の協力を得ながら介護計画を作成している。毎月、職員会議終了後に2ユニットの全職員によるモニタリング会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。介護計画の定期的な見直しは、入居間もない利用者については計画策定の3ヵ月後に、その他の利用者については6ヵ月後に行っている。中には要介護から要支援に区分変更になった利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、日誌やケースに入力し情報共有している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族様に対応できるよう職員間で話し合いながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理容に定期的に来所して頂き利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、入所前と同じかかりつけ医へ通院している。	利用者は全員、入居前からのかかりつけ医に通院し、受診している。湯本診療所が本年9月末で閉院するので、当診療所を利用している利用者については、利用者とその家族の同意が得られれば、事業所の協力医(ゆうきクリニック)に変更することになる見込みである。かかりつけ医への通院は家族の同伴を原則としているが、家族が対応できないときは職員が代わっている。受診結果は事業所と家族間で共有し、適切な症状把握と服薬管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、利用者の体調変化に関する情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	マニュアルに沿って対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは、取り組んでいないが利用者のご家族と話し合いかかりつけ医に相談、対応している。	看取りに関する協力医を確保できていないことやストレッチャー用の風呂が備わっていないことなどから、看取りは行っていない。看取りを行っていないことについては入居前に利用者やその家族に説明し、同意していただいている。利用者の重度化に伴い、事業所で継続して生活することが困難になってきた場合には、他施設への入所申請などの情報を家族に提供している。住み慣れた事業所で最後まで暮らしたいとの思いが利用者やその家族にあることから、法人では看取りを中期的な検討課題と捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で急変や事故発生時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民に協力いただきながら、避難訓練実施している。	市が作成しているハザードマップでは、事業所は水害や土砂災害等の危険区域に位置していない。火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施し(本年度は10月と3月に予定)、夜間の避難訓練も近隣に居住する地域協力員2名の協力をいただきながら実施している。隣接のケアハウス金矢を避難先とし、災害時に備え、非常用の食料と水はケアハウス金矢と連携しながら常時3日分備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な対応を心掛けている。	職員は、出勤時に利用者一人一人と挨拶を交わし、利用者の気持ちに寄り添い利用者の生活の流れを崩さないよう心がけている。例えば、編み物をしている利用者がいれば好きなだけ編み物を続けていれるよう静かに見守っている。トイレ誘導の際には、「お部屋に行きましょう」とさりげなく声がけしている。入浴時にも着替えはバスタオルで隠してあげるなどの気配りをし、また他の利用者との入浴を嫌う方には一人で入浴していただいている。	



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分らしい生活を過ごせるよう、自己決定できる内容であれば支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしい生活が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室担当を中心に身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れている。食べたいものを聞き提供している。利用者には、配膳や食事の下ごしらえや後片付け等して頂いている。	業務改善の一環として、本年度から、朝夕の食事は新たに採用したパートの調理員が担当し、利用者の好みや彩りに配慮しながら、旬の食材を用いた食事づくりを心がけており、利用者からは好評である。食事中はクラシック音楽をBGMで流し、食事の時間が和やかで楽しいものになるよう工夫している。利用者は、食事の下ごしらえ、配膳、下膳、洗浄後の食器の拭き取り、後片付けなど、できることを手伝っている。利用者自身で献立を考え、食材を購入し、食事を作る「キッチン金矢」を年2回開設し、また、誕生会は利用者の誕生日の都度開催している。コーヒーを好む利用者が多いので、午前10時はコーヒータイムにしているほか、年に数回「模擬喫茶店」を開き、利用者はメニュー表から好きなドリンクを選び、カフェ気分を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望に沿って水分提供している。職員は、こまめに声掛けを行ったり工夫し補給していただいている。食事は、全量摂取できる量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助を行い清潔保持に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導を行ったり、声掛けをしている。	各居室にトイレがあり、利用者のプライバシーの確保が図られている。2ユニットの利用者18名の排泄の自立度は、布パンツが7名、リハビリパンツが9名、紙オムツが2名という内訳になっており、職員は、利用者の排泄チェック表を活用しながら、トイレ誘導や声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し職員が排便状況を把握できるよう努めている。便秘予防では、食事や水分補給で工夫し行い便秘の方は、主治医に相談しながらコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、決まっているが入浴を楽しめるよう工夫し声掛けを行っている。希望に沿うよう支援している。	入浴は、週2回(月曜日と木曜日)の午前中を原則としているが、午後に入浴したり、毎日足浴をしたり、夏場にはシャワー浴もできるなど、個々の利用者の希望に沿った支援に努めている。浴室は一度に2、3人が入れる一般浴槽と機械浴(中間浴)ができる特殊浴槽がある。特殊浴槽は階段歩行に不安のある利用者などが利用している。利用者の希望により、一人入浴や気の合う利用者同士の入浴ができるよう配慮したり、菖蒲湯やゆず湯で季節感を味わえる工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の説明書ファイルに綴り、職員全員が把握できる状態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を感じる機会ができるレクや行事や食事作りなど活動している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出する機会は減っているができる範囲でバスツアーや花や野菜を育てたりしている。	コロナ禍のため、以前のように自宅に一時帰宅したり、買い物に出かけることは控えているが、バスツアーは継続して実施し、春には花巻広域公園から台温泉まで周遊した。秋にも志戸平温泉方面のバスツアーを予定している。また、事業所の庭先のプランターで野菜や花を栽培しており、利用者は水遣りや草取りを行い、戸外での時間を楽しみながら過ごしている。時々、近隣を散歩する利用者には、職員が付き添っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、お小遣いをお預かりしている。コロナ禍もあり、欲しいものがある時は代行し買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に対応している。オンライン面会など行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう清潔保持、室温調整を行っている。季節を感じられるようレクリエーションで壁画作品を作成し掲示している。	ユニット毎の食堂の間には20畳程の和室があり、広い共用空間で、両ユニットの利用者が好きな場所で編み物をしたり、新聞やテレビを見たりしながら、ゆったりと生活している。吹き抜けの廊下の壁面には利用者が作成した季節感のある絵画が飾られている。広い窓とトップライトからの外光で、室内は明るく、適温に調整されている。整理整頓が行き届いており、新型コロナウイルス感染防止のためのアルコール消毒も徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は、座席を決めず自由に他利用者で交流できるよう努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム金矢 南町ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	利用者には、馴染みの物をご持参していただき 安心して生活できるよう努めている。状態に応じ てその都度、対応している。	各居室にはベッド、洗面台、クローゼット、トイレ、 エアコンが備え付けられており、個々の利用者の 好みに応じた温度と風量の調整が事務室の操作 盤ででき、快適に過ごせるようになっている。利 用者は、テレビ、衣類及び衣装ケース、ハンガー など自宅で使用していた馴染みの物を持ち込ん でいるほか、家族写真や趣味の作品(刺し子、編 み物、塗り絵など)を飾っている。持参したもので あっても、危険性がある場合は、そのことを家族 に伝え、持ち帰っていただくこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全に行動ができる環境を整えている。		